特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会 会報　2022年(令和4年) 9月30日発行

みずべ Mizube Vol.39

エコリーダー養成講座２０２１-持続可能地元アクション

「地元の運河をクルージング～小さなヨットでエコなスポーツ体験～」

ハンザヨットの講習

天気に恵まれ、良い経験ができました。企画に携わってくださったすべての方に感謝です。

令和３年１１月２８日、江東区環境学習情報館えこっくる江東主催の連続講座 - エコリーダー養成講座２０２１- 持続可能地元アクションの第２回が開催されました。この日の講座のサブタイトルは「地元の運河をクルージング～小さなヨットでエコなスポーツ体験～」。水辺での活動、リバーガイドさんの説明とともにクルージング、ハンザの乗船体験といった、もりだくさんの企画となりました。この講座、エコリーダー養成講座２０２１は、地域でエコの活動をするリーダーを育成すべく、環境に関わる活動を地域でされている方に講師となっていただき、参加者が実際の活動体験をしたり、実際に活動をされている方に会って、話を聞けるものとしました。

当日は、えこっくる江東で水辺のまちづくりに関する講義、ハンザを使ったまちづくりの講義ののち、えこっくる江東から徒歩で約５分の船着き場、潮見１－２９の船舶係留所を特別に貸していただき、ここからがれおんさんの動力船へ乗船しました。この船着き場は普段は海上の清掃を行う船舶の係留地となっており、一般の船舶の利用には供用されておりません。今回はご厚意で水上の清掃に関する説明もしていただけ、水辺の環境について多くの学習を行うことができました。えこっくる江東から、すぐそばの水辺である塩浜運河に降り立ち、身近な場所から水上へ出ることのわくわく感とともに、豊洲マリーナ（東電堀）へ船を走らせました。リバーガイドさんのガイドでまちを水辺から見上げ、私たちのまちを普段とは違う視点で、そして、町の知識を深堀りで得ることができました。オリンピックパラリンピックで使用された会場も水辺から見ると、陸上からの距離感とはまた違い、水を介して、ひとつづきの地形のなかに、まちの連続性が感じられました。そうするうち、いよいよ豊洲マリーナ（東電堀）に到着です。

豊洲ぐるり公園船着場到着

セイラビリティ東京さんのガイドのもと、ハンザの乗船体験をさせていただきました。３グループに分かれて、水上で安全についての講義を受けるグループ、ハンザのつくりなどについての講習を受けるグループ、実際にガイドさんと一緒にハンザに乗って、体験をするグループに分かれて体験をしました。この日は風も心地よく、ハンザが良く走る、心地の良いコンディションでした。コロナ下での開催でしたので、体験者が代わる度のハンドルの消毒など、工夫をしながらも、全員が体験することができました。まちのこと、地域の魅力のこと、自分の肌の体験として、楽しいや気持ちいいを持ち帰ってもらえました。参加者には地域で、地域の資源を活用してエコに魅力のあるまちをつくっていく活動を、実体験とともに感じ、学習してもらえる機会となったかと思います。本当にお願いして良かったです。自分の住むまちを継続して持続可能に楽しんでいくヒントをたくさん提供していただけた、素晴らしい講座をありがとうございました。

えこっくる江東　諏訪正晃

「みずべ」の歴史　その４　リバーフェスタ江東

旧中川・川の駅ができ、水陸両用バスのスロープや休憩施設ができた、2013 年 (平成 25 年)3 月 16 日にオープニングイベントを計画することになりました。これは江東区から相談を受けたもので、3 月 16 日 (土) と 17 日 (日) にリバーフェスタ江東として開催されました。2011 年 3 月に東日本大震災が発生しましたが、その 2 年後に始められたイベントでした。

翌年の 2014 年からも毎年 3 月に開催してきました。カヌーやヨットなどの水上パレードによるオープニングに始まり、スカイダック、和船、カヌー、周遊船などの乗船体験、江東区の観光案内処を設置したり、テントを設営しての防災体験、さらに町内会の協力による飲食物の販売、東京海洋大学や芝浦工業大学の協力による工作教室なども実施してきました。

2020 年 3 月は、新型コロナ感染が拡大し、中止せざるを得ない状況になり、直前に中止を決めました。

リバーフェスタ江東 2013 年　パンフレット

リバーフェスタ江東は、区役所の助言により始められ、近隣の町会とも協力してイベントを行なうことを目指し、区役所、町内会、協力会社とともに実行委員会をつくって運営してきましたが、一方で町内会の一部からは特定の企業のために開催していると誤解されていたことは、非常に残念に思っています。

カヌーによる水上パレード

しばらく中止期間が続き、町内会も力を入れられなくなってきたので、このイベントも体質を変える必要があると考えています。その一つの試みとして同じ場所で、「夜の水彩カフェテラス」を開催してきました。

江東区の水辺の親しむ会では、旧中川・川の駅周辺の魅力について、様々な催しを行なうだけでなく、継続的な活動を通じて多くの方に知ってもらいたいと考えています。　（本会理事　庄司邦昭）

イベント情報

水彩サロン 2022 秋学期**「各講師が語る　地元の歴史探訪」**

会場 : 森下文化センター
14 時から 16 時

第１回　9/25「地名から読み解く」地名が語るすみだの歴史 (本所区編)　高野祐次 (墨田区副区長)
第２回　10/16「江戸・黄表紙の世界」深川・木場にも名だたる戯作者が…　棚橋正博 (日本近世文学者)
第３回　11/20「中村学園物語」[ほんたうのさいはひ] を尋ねて　小林和夫 (中村学園　前理事長・校長)

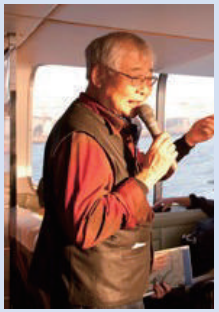
****

宮村忠先生追悼記事

本会会員の宮村忠先生（関東学院大学名誉教授）が 2022 年（令和４年）９月３日、83 歳でお亡くなりになられました。先生は 1939 年（昭和 14 年）６月 22 日東京市深川区でお生まれになりました。河川工学がご専門で「水害と土地利用に関する実証的研究」で 1975 年に東京大学から工学博士号を授与されています。

本会では長年にわたり、水彩サロンとして「河川塾」を開催し、毎回日本の各県ごとに河川についての興味あるお話をしていただきました。その内容も含めて、『川を巡る―「河川塾」講演録―』が日刊建設通信新聞社より刊行されています。記憶に残るのは「下流部にある江東区の人たちが安心して生活できるのは上流部のお陰」という言葉で、皆で先生と渡良瀬遊水地を訪問しその言葉を実感しました。

宮村先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



船上での講演

江東区の水辺に親しむ会 会報「みずべ」39号　発行日／令和4年 9月30日　発行／特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会
〒135-0021　東京都江東区白河1-3-13-106　連絡先／Tel.03-5639-2818　Fax.03-5639-2822　http://koto-mizube.org

2020年 2021年の活動

新型コロナウイルス感染拡大状況で本会の活動も制限される中で、水彩サロンとCIG活動はほぼ平年並みに実施された。

＜水彩サロン＞ suisai salon

水彩サロンはコロナの影響で2020年は開催月を遅らせて実施しました。2020年2021年のいずれも会場は森下文化センターにて、日曜日の14時から16時に開催しました。

2020年春学期
第１回：６月14日「渋沢栄一の足跡」
第２回：７月５日「渋沢栄一の精神」
第３回：８月９日「渋沢家と佐々木家」
佐々木勇（澁澤倉庫）

2020年秋学期
第１回：10月11日「あのとき、あと数時間で荒川決壊」
土屋信行（リバーフロント研究所技術参与）
第２回：11月８日「設計士の目で見た江東の橋「トラス」と「ゲルバー」」
高浦秀明（橋梁設計士）
第３回：12月６日「小名木川秘話」山本鉱太郎（旅行作家）

2021年春学期
第１回：５月16日「中村学園、深川に生まれて百十二年」
小林和夫（中村学園前理事長）
第２回：６月13日「俳聖・松尾芭蕉翁の二つの側面」①
佐藤勝明（和洋女子大学教授）
第３回：７月11日「俳聖・松尾芭蕉翁の二つの側面」②
佐藤勝明（和洋女子大学教授）

2021年秋学期
第１回：９月19日「深川談義　～熟女３人（？）深川の粋を語る～」
魚住昭子（料亭金柳女将）、片山祐子（タウン誌深川編集長）、須永俶子（本会理事長）
第２回：10月10日「大河ドラマ“青天を衝け”に想いを寄せて」
佐々木勇（渋澤榮一翁の語りべ）
第３回：11月14日「奥の細道と芭蕉の旅」
梅津保一（NPO法人「おくのほそ道」大学学長）

「渋沢家と佐々木家」

「中村学園、深川に生まれて百十二年」

「深川談義　～熟女３人（？）深川の粋を語る～」

＜CIG活動報告＞ city in the green

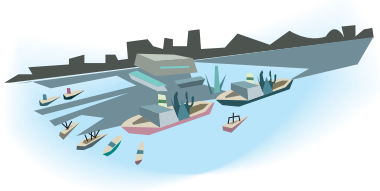
江東区からの委託を受けて実施しているCIG（City in the Green）活動では、次のようなキャンペーン、講習会、交流会などを実施しました。

2020年度
キャンペーンの実施（深川ギャザリアガーデンフェスタ：４月13日、４月14日）
（水彩フェスティバル：９月23日）
（江東区民まつり中央まつり：10月19日）
（豊洲マルシェ：10月26日、10月27日）
（グリーンフェスタin東陽公園：11月17日）
新規モニター植付け講習（５月26日、９月29日、２月29日２カ所、３月１日）
継続モニター植栽管理講習（４月12日、５月２日、５月12日、５月19日、６月２日）
交流会開催（９月１日、10月５日、11月24日、12月８日２回）
最終交流会（２月16日）
ニュースレター発行（７月１日、11月１日、２月１日）

2021年度
新規モニター植付け講習（６月26日１回、３月20日２回）
継続モニター植栽管理講習（11月20日１回、11月21日１回、11月29日２カ所）
交流会開催（７月11日、12月11日、３月13日）
ニュースレター発行（８月13日、11月23日、３月25日）

2020年の講習会の様子

2021年の交流会の様子



連載江東の橋

《その２　緑橋》高浦秀明（橋梁設計士）

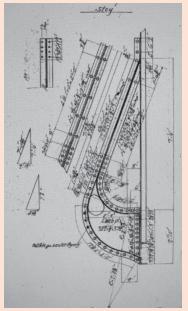
門前仲町からまたは永代橋から歩いてきて福島橋で北側を見ると緑色の橋が見えます。下を流れる川は大島川西支川（もと油堀川）です。北の仙台堀から大横川に向かって、松永橋、元木橋、緑橋、御船橋、福島橋、巽橋の６橋。緑橋と同じ復興橋梁の御船橋は取り壊され架け替えられています。

緑橋の創架は元禄４年（1691）。忠臣蔵の騒動は橋ができて10年後のことです。付近の松賀町の松の緑に因んで緑橋と名づけられました。江戸時代には幕府の管理する御入用橋と町人の管理する町管理の橋があり、緑橋は幕府の管理する橋でした。以来大正まで木橋で長さ10間、幅2.5間（18m＊4.5m）でした。大正12年の関東大震災では緑橋も昔ながらの木造だったので焼失してしまいました。東京市内で震災により落橋した橋は少なかったのですが火災による橋の被害は甚大でした。

震災後の復興橋梁として、昭和３年から翌年の工事で現在のトラス橋が完成しました。橋長23m。これは江東区に現存するトラス13橋の中で最も短いものです。規模は大きくないですが、名前と形がマッチした素敵な橋です。大型のトラスは天井に両サイドの主構同志をつなげる部材がありますが、緑橋は天井のつながっていないポニートラス形式です。外側のカーブした支柱が秀逸。工芸品としても見どころがあります。戦中戦後90年を生き延びてきた江東区の水辺の宝です。基本構造は建設時から変わっていませんが、照明その他細部は戦時中の金属供出で外されたと思われます。

周辺の景観はごちゃごちゃして写真も撮りにくい。また親柱などもずれていてせっかくの素敵な橋がもったいない。鑑賞する場の整備も重要です。

側面の象の鼻のような支柱のデザインがかわいい。


象の鼻の図面

最寄り駅：地下鉄東西線・大江戸線門前仲町駅歩10分。　昭和４年（1929）建設。

ーつづく